

## ワンデーエクササイズ

11月11日(土)に第13回ワンデーエクササイズを岡山市立中央公民館で開催しました。参加チームも毎年増え続けている関係から「1校2チームまで」という制限のもと最終的に9校17チーム(学生、指導者計178名)でのコンペとなりました。

課題は「西大寺中心市街地の活性化を軸とした”元気で緑あふれる美しいまちづくり”」で課題地はカネボウ跡地です。現在西大寺の新拠点としての有効利用策定中で、この時期の学生としての提案が将来本人に間違いなく有意義なものとなる課題です。

審査委員長に東京大学大学院助教 千葉 学氏をお迎えし、各チームへの質問、助言並びに公開審査をしていただきました。毎年、賞の選定は審査委員長に一任していただき、どんな観点から評価されるのか、また賞を選定されるのか、我々設計者としても学ぶところが多い場面です。審査の結果、最優秀賞は敷地に接する周辺環境への融合から敷地全体をまとめる手法の「あなたのゆとりはなんですか?」を提案した【中国デザイン専門学校Aチーム】、優秀賞は生産性の観点から工場の再生を提案した【川崎医療福祉大学Aチーム】と五福とこの地域の二面性から「再大事」を提案した【岡山理科大学専門学校Bチーム】が選ばれました。また(社)岡山県建築士会会長賞は【岡山理科大学専門学校Aチーム】、(社)岡山県建築士事務所協会会長賞は【専門学校岡山情報ビジネス学院 TACCHI】、(社)日本建築学会中国支部岡山支所長賞が【岡山科学技術専門学校Aチーム】に選ばれました。

総評として、まちづくりを考えるときに大切にしていきたいこととして「建築デザインの美しさとまちとの関係」、「プログラム」そして「それがビジネスとして成立するかどうかまで考えること」を指摘され、今回の提案で意外に感じたこととして居住施設の提案が少なかったことを挙げられました。また日常の姿勢として、自分の思いを大切にすること、そしてそれを客観的に見れる力を備えることの大切さを強調した励ましの言葉をいただきました。プレゼン時の質問のやりとりの場面で若者らしいまっすぐな姿勢をやさしく受け止める大きさまで見せていただき千葉先生には「まちづくり、ひとづくり」の講師としてご指導いただきました。

年に一度、グループを組んで課題に取り組み、公開審査で他校のグループと提案を競うワンデーエクササイズも今年では県、市、建築4団体の協力を得て行える事業になりました。13年も継続できたことはすばらしいことで、これこそ設計クラブのまとまりの賜物といえるのではないのでしょうか。20周年を期に更なる発展を祈念するとともに、関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

事業委員長/菅野 憲

○ 参加校(9校、17チーム)

岡山県立大学、山陽学園短期大学、岡山情報ビジネス学院、岡山科学技術専門学校、岡山理科大学専門学校、川崎医療福祉大学、中国デザイン専門学校、美作大学、ノートルダム清心女子大学



## 設立20周年記念 上映会

### 「マイ・アーキテクト」 ルイス・カーンを探して



建築設計クラブ主催により、ルイス・カーンの生涯の足跡を辿る映画へ足を運んだ。映画の内容は、カーンの建築への思想よりも、どのような人物だったのかと言うことを色濃く描いていた。映画監督でカーンの息子ナサニエルは、ただ淡々とカーンの生涯に関連した人達に質問を投げかけて、そこには、息子としての感情はなかったように感じられた。ただ、父親の設計した建物を巡り、建物に携わったエピソードを聞き、カーンと言う人物を理解して行くに連れて感情が高まっていったのではないかなと思う。その感情を押し殺し、第三者の目線で関係者に接していたが、唯一母親のハリエット・パティソンの前では、映画監督ではなく息子ナサニエルに戻っていた。映画の内容は理解しがたい部分もあったが、建物自体には興味深いものがあり、ソーク生物研究所や息子と娘たちの対談に使われたノーマン・フィッシャー邸には一度訪ねて見たいと思いました。

塚本

## 20周年記念 講演会

### 「建築の力・ローマの場合」



平成18年11月18日、「建築の力・ローマの場合」と題した講演会が行われた。これはOKC20周年記念事業の一環としてOKC主催で企画されたもので、国立西洋美術館館長 青柳正規(あおやぎまさのり)先生を講師とし、岡山ルネスホール(旧日銀岡山支店跡)で約300人を集め1時間半にわたり講演された。現在日本では、戦後から進められてきた都市計画やまちづくりの方向の見直しが必要になってきており、特に地方都市では中心市街地再活性化のあり方等に関する検討が急務である。現国立西洋美術館館長の青柳先生は、東京大学文学部教授を勤めると共に、ポンペイ遺跡の発掘調査団団長を勤めるなどの活躍をされた、古代ギリシャローマ美術史の第一人者であるが、かつて建築への進学を希望していたと本人が言われるように、建築や都市に関する造詣も深く、古代ローマ帝国の研究から現代社会のあり方やまちづくりのヒントになるような、基本的な考え方に関する示唆に富んだ多くの話を聞くことができました。

20周年記念副委員長/武田 賢治